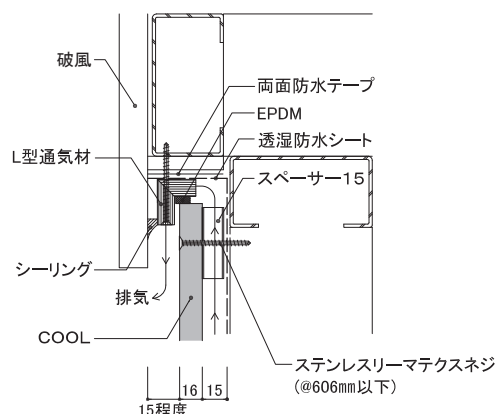
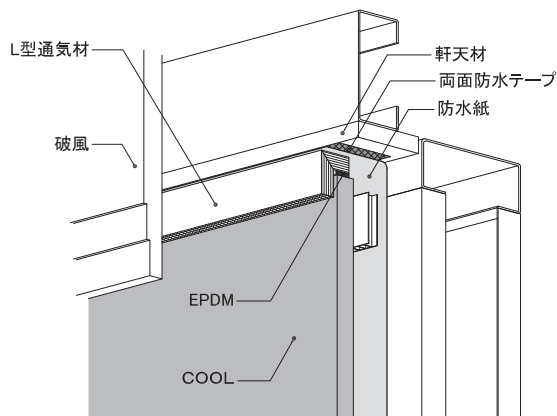


破風・パラペット部(L型通気材を使用した場合)

■破風納まり例

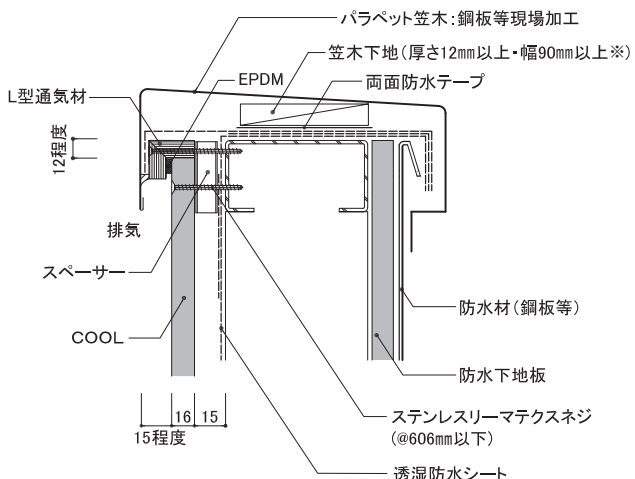
軒の出寸法が少ない破風やパラペット部分などは雨水浸入防止のため通気見切縁のかわりに、図のように、軒天換気部材:L型通気材を使用してください。



注意事項

- 防水紙の張り終わり部は両面防水テープを使用して、入念に止水処理をしてください。
- L型通気材は本体に付いている両面テープの剥離紙を剥がし、EPDMが付いている面を下向きにして、L型通気材を取り付けます。通気材はビスで本体に対し2本以上留め付けてください。
- 切妻屋根の妻面などの傾斜のある部分で使用する場合、COOL表面とL型通気材との隙間を10mm程度確保してください。隙間が狭すぎると、上手く施工できないおそれがあります。COOL施工後はL型通気材とCOOLの間の隙間をシーリング処理してください。

■パラペット納まり例



注意事項

- 既製アルミ笠木などは、笠木内部形状が一定でないため十分な止水処理が困難であり、被せ高さなども不足するため、施工不可となりますのでご注意ください。
- COOLのビス打ち下地のスパースーは、通気を阻害しないように施工してください。
- COOLを施工する際、L型通気材を取り付けるために、COOL上端を通常より12mm程度下げて施工します。
- L型通気材に付いているEPDMはCOOLの表面に押しつけるように取り付け、L型通気材本体に対してビス2本以上留め付けてください。
- アルミの笠木を使用する際は、L型通気材厚み分、一般の笠木より大きめの物を選定してください。
※笠木下地は長さ2m以下ごとに30mm以上の隙間を設けます。

■その他の施工のポイント

- L型通気材の側面を完全に止水処理することが重要となります。
- L型通気材の連結部分は、両面防水テープ貼り、もしくはシーリング処理をしてください。
- L型通気材および破風(鼻隠し)など仕上げ材の留め付けは、胴縁または躯体に届くよう留め付けてください。

注:下地鉄骨胴縁はC-100×50×20を想定した図面としています。

内装側被覆材は防耐火の要求条件に合わせ施工してください。